

東日本大震災被災地応援実行委員会たより

轍わだち

2018. 9. 11 NO. 103

災害列島、命を守るために

立て続けに起きる自然災害に、「もう人事ではない!」という思いを抱いている人がほとんどです。現に京都を直撃した台風21号は、校舎にも、生徒・教職員の住宅にも被害をもたらしました。樹木が倒れ、瓦や屋根が飛ばされたり、塀が壊れたり、窓ガラスが割れる等、停電・断水を除く何らかの被害を受けたお宅が30件に上っていたと聞きました。お見舞い申し上げます。

台風が去るか、去らないか…今度は北海道胆振^{いぶり}東部地震です。震度7の地震は、厚真町の大規模な土砂崩れを始め、今も余震が続き、各地に被害をもたらしています。この地震で36の方が命を落とされました。ご冥福をお祈りします。

私たちは、いずれの災害で被害を受けた方々に対して、心を寄せた支援活動を行いたいと思います。

命を守るマニュアル：防災グッズをキレム

9月1日、「いのちを大切にするマニュアル」が配布されました。大阪北部地震後、委員会では全校生とのみなさんにアンケートを行い、災害時の対応や困りごとを聞きました。その結果を先生方に伝えて今回のマニュアルの作成にいかして頂きました。

また、9月19日の避難訓練までに、避難経路図の変更についても提案しました。

全校生が学校に準備する防災グッズの完備も行ってもらえるように働きかけました。

どれもが、まだまだ改善する余地があると思います。

「自分の命は自分で守る」ことは、あの日2011年3月11日におきた東日本大震災の教えです。私たち委員会はその教えを、今、生徒の知恵を集めて実行しています。

みなさんも、防災に取り組みながら、被災地応援活動に参加してください!

小さな力も、集まれば大きな力となる！

卒業生の清水聖です。

私は8月20・21日に古本チャプレンから誘って頂き、岡山に震災ボランティアに行ってきました。平安女学院に在学中、私は7年間東日本被災地実行委員会で活動させて頂いていました。しかし、その7年間私は一度も被災地に行ったことがありませんでした。いけないから、ではなく、被災地に行って目の前の現実を見るのが怖く、行けなかったのです。

しかし今回、チャプレンからお誘いしてもらい、こんな自分でも役に立てるなら行きたいと思い、岡山へ行きました。一日目はボランティアを終えた方の食事を作る食事ボランティア。倉敷についたのですが、そこから教会の牧師さんが真備地区まで車で被災地を見せて下さいました。教会があるところから30分も離れていないのに、そこは悲惨でした。1か月経っていたのに、車は横転、お宅の一階が全滅という状況でした。正直、言葉に表せなかったです。

2日目は聖公会の方、チャプレンとともに、お宅の床下の泥をひたすら掻き出すというボランティアでした。たくさんお宅がある中の一件で、そのお宅ですら1日に数人がかりでやっと床下の泥水が綺麗になってきたかな？という状態でした。

ボランティアに行くまでの私は、被災地を自分の目で実際に見たことはなく、学校を通してのボランティアしかしたことがありませんでした。しかし今回の経験から、些細なひとりの力でも、気持ちが大事なんだなと思いました。

台風21号や北海道地震がありましたが、私は今回のボランティアでひとりひとりが手を取り合って助け合えば大きな力になるんだなという当たり前のことですが、身にしみて実感することができました。私は今まで自分なんかがしても何か変わるのかな、ということを考えて時もあったけれど、もしそう思っている人がいるなら、そう思わず、行動してほしいと思います。

西日本豪雨災害

7月8日、台風7号と、梅雨前線などによる集中豪雨は、西日本を中心に河川の氾濫・洪水・土砂災害などの被害を招いた。広島・岡山・愛媛など広範囲に渡った被害は、死者221人、行方不明9人、負傷者421人、住宅の全壊6,296棟に及んだ。

清水さんと、チャプレンがボランティアを行った岡山県倉敷市真備町は、堤防の決壊で町の4分の1が浸水した。浸水の深さは5.4mに達したところもあり、51人が死亡。そのほとんどが水死だった。